

研究室だより

奈良女子大学 保健管理センター 高橋研究室

本学は近鉄奈良駅から徒歩 5 分の交通至便の地にあり、環境に恵まれ、奈良公園や東大寺などは徒歩圏内である。万葉集や古事記の研究で有名な文学部・岡潔博士が教鞭をとった理学部のほか、本研究室が所属する生活環境学部の 3 学部から成る。

本研究室は、平成 12 年 4 月 1 日、高橋の奈良女子大学への着任にともない開設された。以後 11 年間に 18 名の大学院生を受け入れ、修士号取得者は 14 名、博士取得者は 5 名であり、現在修士課程 3 名博士課程 3 名が在籍している。本学は大学院受験資格も女性に限定していることから、本研究室の大学院生は全員女性である。

本研究室の研究テーマは大別して 3 つに分かれる。

1 禁煙に関する研究

平成 18 年 4 月から平成 22 年 3 月までの 4 年間の厚生労働省科研「喫煙と禁煙の経済評価の研究」「各種禁煙対策の経済影響に関する研究」では医療経済学的研究を推進した。1) たばこ価格の変動と税金・喫煙率の予測 (たばこ代を値上げすると本当に税金減になる?) 2) 禁煙支援の医療評価 (医者による禁煙保険診療・薬剤師による禁煙治療薬の薬局販売・歯科医師による禁煙支援、医療評価的な優劣は?) 3) 喫煙者と非喫煙者の医療費比較 (喫煙者と非喫煙者、どちらが医療費が高くつく? 喫煙者は早世するために医療費節約に寄与しているというのはホント?) の 3 つの命題について規模の大きな研究を進めた。

これらは平成 22 年 10 月のタバコ価格値上げに直接的につながる成果であったが、指導教官の高橋の本来の研究テーマはこうした経済研究とは異なって「禁煙支援プログラムの構築とその成果評価」であり、疫学的手法を用いた研究が主である。大学院生の研究テーマも、「子どもタバコゼロプロジェクト」「喫煙防止教育の方法と教材の作成」「全国大学禁煙化プロジェクト」「女性や妊産婦の喫煙と禁煙」「メールサポートや禁煙治療の成果評価」「精神疾患における適切な禁煙支援方法の開発」など、禁煙支援に関連した題名が並ぶ。

大学禁煙化プロジェクトは、大学生を非喫煙者に社会に送るための必要な資材や治療薬を全国の大学に提供するものであり、学生の禁煙治療に必要な薬剤や大学での喫煙防止教材の無料送付を含むサポートを各大学の保健管理担当者が申し込んで利用する。プロジェクト開始後 10 年で利用大学は 300 大学以上に上り、年 1 回の研究会への参加者は毎回 200 人を超える。また子どもたばこゼロプロジェクトは、喫煙する児童生徒を禁煙治療につなぐサポートであり、奈良県・保健所と協働で日本全国でも珍しい「子どもたちから自分の喫煙を先生に打ち明ける」体制を構築してきた。これら二つのプロジェクトは、研究室から全国に禁煙サポートツールを提供するとともに大学院生の研究テーマとなってきた。

そのほか、禁煙分野では、精神疾患における禁煙、女性の禁煙など、一般に禁煙導入が困難と言われるケースへのアプローチ方法について社会環境も含めた適切なプログラム構築もテーマのひとつである。

2 特定保健指導・職域での健康支援方法に関する研究

職域での特定保健指導や体重コントロールに関する研究は本研究室のもうひとつの大きなテーマであり、携帯メール通信 (写メ) を用いた体重コントロールプログラムの作成をはじめ職域に出向いての調査研究を大学院生を中心に継続してきた。

3 きものと健康に関する研究

平成20年から追加した新しいテーマである。和装着用による健康影響についての疫学的研究のほか、生活環境学部の他の教官との共同研究など、実験的手法を用いた研究にも着手している。

以上、本研究室の主たる研究テーマについて述べたが、健康に関する研究であればどのような研究もウェルカムとしてきたことから、大学院生は高橋とともに、各人の関心のあるところについての研究を進めてきた。

積極的に社会人学生を受け入れてきたことは本研究室の特徴といえよう。本研究室に在籍した18名の大学院生の職業は、保健師8名、薬剤師3名、管理栄養士3名、医師1名、助産師1名、メンタルトレーナー1名、医療系行政職1名であった。年齢層は高く、18名中5名が指導教官より年齢が上で、3名が定年退職の前後に医療人としての仕事の総決算を希望して入学してきたものであった。

本学では社会人学生の単位取得に関しては学内の協力が得やすく、休日や夜間のレクチャーなども設けられるが、本人の努力が必要なことは言うまでもない。本研究室は大学院生は全員が既婚者であり、子育てや親の介護と大学院での研究、そして自分の本来の職務という3足のわらじを履きながら学位を取得した。

修了後は、入学前からの職場に残るほか、本研究室のスタッフを経て大学教職に転職した者をふくめ4名が大学教職に就いている。他の研究室同様、他大学との交流も盛んで、常時他大学の大学院生や研究生の受け入れ等もおこなってきた。

以上、本研究室を簡単に紹介した。本学には医学系の学部はないことから、本研究室の院生やスタッフは指導教官の高橋も含めて全員が他大学の出身者であるが、研究室内の先輩後輩の繋がりが強く、働く女性どうし支えあう暖かい雰囲気研究室に満ちていることは指導教官としてまことにありがたい。

最後に、高橋研究室に在籍した大学院生各人の頑張りに拍手を送るとともに、これらの大学院生を支えてくださった多くの先生方、研究室を応援くださった多くのみなさまにも感謝を申し上げたい。



奈良公園に至近で、学内には10頭を超える鹿が常住。



研究室にて大学院ゼミ風景



喜びの学位授与式。研究室前の大学中庭で撮影 背景は本学記念館（重要文化財・2階ホールで学位授与）中央白い着物が高橋で、残りは学位を受ける本研究室の大学院生たちです。

学会通信 128号 平成 23年 3月 3日発行